

年度を跨ぐ検証・改善に基づくプランニング — 日田市立咸宜小学校 —

参考例

年度を跨ぐ 部会毎の成果・課題のまとめ、構造化ができています

育成を目指す子ども像が明確



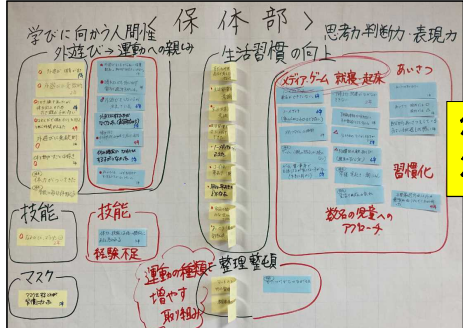
焦点化

- ◇成果
 - ・成功体験、自己理解の高まり
 - ⇒自己・他者肯定感向上
- ◇課題
 - ・交流活動不十分、自信を持ってない子
 - ⇒人権感覚の更なる向上
- ◇改善へ
 - ・職員の人権感覚の更なる向上
 - ・交流行事等の一層の充実



焦点化

- ◇成果
 - ・落ち着いた学校生活
 - ⇒良好な人間関係、仲間作りの推進
- ◇課題
 - ・生活規律
 - ⇒「指導」には従う状態だが…
- ◇改善へ
 - ・「外発的」→「内発的」指導への変革
 - ・交流行事等の一層の充実



焦点化

- ◇成果
 - ・基本的な生活習慣の向上、外遊び増加
 - ⇒家庭と良好な連携
- ◇課題
 - ・一部外遊びに向かわない、ゲーム過多
 - ⇒体力、技能が不十分
- ◇改善へ
 - ・外遊びのバリエーション充実へ
 - ・メディアコントロールの家庭との連携

こんな子どもを育てたい

必要に応じて参考にする

強い意志と正義感を持ち、仲間をいたわり協働し未来を創造する子ども

反映

達成状況に応じて
て関連する

標準2		令和3年度 学校評価の4点セット		1学期
日田市立 咸宜小 学校				
【学校の教育目標】 たくましく ゆたかに 立つ				
【育成を目指す資質・能力】 意欲的に、考え表現する力・他者と協力する力				
重点項目	達成指標	重点的取組	取組指標	評価
【知識及び技能の習得】 基礎的な学力を身につけた児童の育成	【知】 学期毎の単元テスト平均を以下の点数以上に する。 ()はR2.1,2学期平均 低学年：国88(87) 算89(88) 算86(85) 算83(82) 算86(85) 算83(83)	○新大分スタンダードに基づく授業改善の推進 ○朝のドリルタイムと放課後の補充学習の推進 ○握力、瞬発力、投げの力の向上	○授業者は、まとめと課題、振り返りためてを毎時間設定して授業に臨む。 全教員で、月・火・木のドリルタイムの指導にあたる。 ○担任は、放課後の補充学習を週1回必ず実施する。 ○授業者は、体育の時間に、握力、瞬発力、投げの力の向上をねらったストレッチや立ち幅跳びの練習を取り入れる。	○授業者は、まとめと課題、振り返りためてを毎時間設定して授業に臨む。 全教員で、月・火・木のドリルタイムの指導にあたる。 ○担任は、放課後の補充学習を週1回必ず実施する。 ○授業者は、体育の時間に、握力、瞬発力、投げの力の向上をねらったストレッチや立ち幅跳びの練習を取り入れる。
【思考力、判断力、表現力等の育成】 自分なりの考えをもち、自信をもつて表現できる児童の育成	【知】 「ペア・グループ学習の時に、習ったことや図を使ってお互いに自分の考えを分りやすく説明できた」との間に肯定的に回答する児童の割合を全体で70%以上にする。	○「条件付作文タイム」の推進 ○人間関係づくりプログラムの推進	○担任は、週1回「ドリルタイム」において「条件付作文」に取り組みせ表現力の基礎を培う。 ○担任を中心に毎週木曜日の「グループエンカウンター」やSSTに取り組み ○保護者は、年間3回の生活習慣強化週間「生活万善簿」を活用しながら、挨拶、早起き朝ご飯、メディアコントロール等について話す機会を確保する。	○担任は、週1回「ドリルタイム」において「条件付作文」に取り組みせ表現力の基礎を培う。 ○担任を中心に毎週木曜日の「グループエンカウンター」やSSTに取り組み ○保護者は、年間3回の生活習慣強化週間「生活万善簿」を活用しながら、挨拶、早起き朝ご飯、メディアコントロール等について話す機会を確保する。
【学びに向かう力、人間性等の涵養】 自他の肯定感を大切に、仲間と協働する児童の育成	【知】 「学校に行くのは、楽しいです」と肯定的に回答する児童の割合を5%以下にする。 (R2年間平均7%) 【体】 「咸宜小チャレンジ」において、自分から進んで取り組んだと肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。	○新「咸宜つな宣言」の意識化の推進 ○「咸宜の木の木」等を活用した他者理解の推進 ○「咸宜小チャレンジ」の推進	○学校目標で「きりぎりす」の紹介を継続する。 生活部部長を中心に、各種集会で好事例を紹介する。 各担任は、人権学習や短生活で好事例を紹介する。 保体部部長および担任は、学期毎の「咸宜小チャレンジ」(細跳び・50m走・マラソン)に主体的に取り組みを進める。 ○「生活習慣」強化週間における「ふれあいタイム」の推進	○学校目標で「きりぎりす」の紹介を継続する。 生活部部長を中心に、各種集会で好事例を紹介する。 各担任は、人権学習や短生活で好事例を紹介する。 保体部部長および担任は、学期毎の「咸宜小チャレンジ」(細跳び・50m走・マラソン)に主体的に取り組みを進める。 ○「生活習慣」強化週間における「ふれあいタイム」を実施し親子の絆を確かめる。
【働き方改革の推進】	○時間外勤務時間を月平均40時間以内にする。 R2：月別平均時間 1月：30時間 2月：39時間 ○「ノー残業デー」(金曜日)の取り組みで、18時までに退庁する教職員を70%以上にする。 R2：3学期平均60%	○効果・効率の観点から業務の見直し・業務改善、意識改革のための改善運動 ○業務改善における家庭・地域の理解促進 ○学校支援活動の充実	○管理職は、業務改善推進委員会を月一度開催し、1改善運動の状況も踏まえて、業務の見直しを行う。 ○管理職は、学校運営協議会において、学校の働き方改革についての議題を学期1回設定し家庭・地域の理解と協力が得られるようにする。	○管理職は、業務改善推進委員会を月一度開催し、1改善運動の状況も踏まえて、業務の見直しを行う。 ○管理職は、学校運営協議会において、学校の働き方改革についての議題を学期1回設定し家庭・地域の理解と協力が得られるようにする。